

桑古条マルチングさし木用案内棒の考案

誌名	蠶絲研究
ISSN	00364495
著者	小松, 茂夫
巻/号	100号
掲載ページ	p. 16-19
発行年月	1976年

農林水産省 農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センター
Tsukuba Business-Academia Cooperation Support Center, Agriculture, Forestry and Fisheries Research Council
Secretariat



桑古条マルチングさし木用案内棒の考案

小松 茂夫

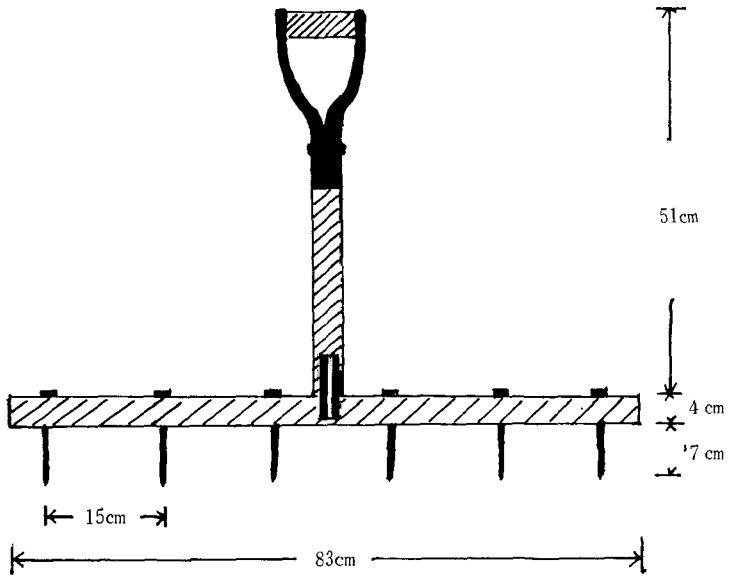
桑古条マルチングさし木法において、さし穂をさし床にそう入する場合、さし穂の先端にポリフィルムが付着すると活着率を低下させるので、予めポリフィルムにそう入孔を設ける。蚕糸局²⁾、山本³⁾らは所定の箇所マジックインキで印をつけたポリフィルムを数枚重ね合わせて切り込みをつけているが、この方法はポリフィルムの巻き戻しを行なう必要がある。また岩手蚕試¹⁾はさし床にマルチしたポリフィルムに印をつけ小刀で切り込みを入れている。これらは何れも印をつけ1箇所毎に切り込みを入れるもので実場面では多くの労力を要する。このたび簡単なマルチングさし木用案内棒を考案し、使用したところ極めて能率的であり、かつ便利であるのでその概要を紹介する。本稿のご校閲を賜った蚕糸試験場新庄原蚕種試験所長堀内彬明技官及び本稿とりまとめと調査にご協力をいただいた原蚕種研究室長中野修一技官に謝意を表する。

仕 様

考案したマルチングさし木用案内棒は、第1図及び第1表に示すとおりで、握りとなる部分はスコップの廃材の柄(51cmに切りとったもの)を用い、これに15cm間隔に先端をとがらせたボルト6本を打込んだ固定板(角材)を止板で取りつけた簡単なものであり、1回の操作で6箇所のさし込み穴ができる。またボルトの直径は9mm、長さは11cm(せん孔長は7cm)で全重量は1.7kgである。なお今回用いた柄は51cmのスコップの廃材であるが60~65cm位が作業しやすい。

使 用 法

当初では桑苗生産用に2列さしを、直さし密植桑園造成用には6列さしを行なっているが、さし床にポリフィルムをマルチした後2列さしでは第2図に示したようにさし床中央より15cm離してテープを張り、テープに沿って案内棒をさし込み、さらに反対側にも同様の方法で行なう。6列さしでは第3図に示したようにさし床中央に巻尺を張り、20cm間隔に案内棒の基準線(固定板中央)と巻尺が合致するようにさし込み、さし木用の穴をあけ、さし木を行なう。



第1図 案内棒

第1表 案内棒の仕様

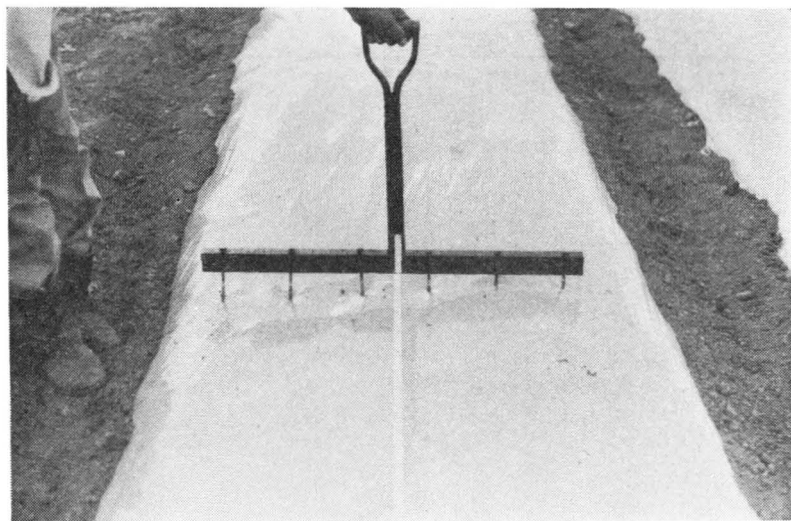
名 称	材 料 ・ 寸 法
握 り	スコップ廃材柄 51cm
固 定 板	角材 4×3.5×83cm
止 板	木板 9×3cm
案 内 棒	ボルト φ9 m/m×11cm 6本

効 果

この案内棒は軽量であるうえに立ったまま作業ができるため、作業者の疲労が少なく、また第2表に示すとおり従来の方法に比し約70～85%の労力を節減することができる。したがって、大量の苗木生産や密植桑園の造成に、本報告に示した案内棒あるいは各地の実情に即した同型の案内棒を作成し、古条マルチングさし木に使用すれば効果的である。



第2図 2列さしの状況



第3図 6列さしの状況

第2表 案内棒によるせん孔労力調査

試 験 区	所要時間 (対10.000本)					
	6列さし			2列さし		
	印付け	せん孔	計	印付け	せん孔	計
1箇所切込区	158 ^分	200 ^分	358 ^分	160 ^分	125 ^分	285 ^分
案内棒使用区	0	48	48 (13)	0	82	82 (29)

() は1箇所毎切込区を100とした場合の指数

文 献

- 1) 岩手県蚕業試験場 1974 図説桑の古条マルチングさし木法理論と実際 岩手県蚕業試験場 70~71
- 2) 蚕糸局 1966 桑古条マルチングさし木法 農林省蚕糸局技術資料(62) 1~42
- 3) 山本賢 1968 マルチングさし木法 九州農政局繭生産改善推進資料(1) 1~13